

## 目 次

はじめに

<b>第1章</b>	<b>リベラリズムとナショナリズム</b> .....	1
	——個の独立と、国の独立	
第1節	リベラリズム	1
第2節	ナショナリズム	33
第3節	小 括	56
<b>第2章</b>	<b>リベラル・ナショナリズムの理論</b> .....	60
	——リベラルな国民統合とは何か	
第1節	個人と共同体	60
第2節	リベラル・ナショナリズムの主張	65
第3節	アイデンティティの統合	67
第4節	言語の統合	90
第5節	社会制度の統合	98
第6節	小 括	117
<b>第3章</b>	<b>ネイションの自律</b> .....	121
	——集团的決定の方法としての民主制の可能性と限界	
第1節	市民の性質——誰が決定するのか	122
第2節	公私区分論——どこで何を決定するのか	138
第3節	民主制の二つのモデル——どのように決定するのか	143
第4節	小 括——グローバルな相互依存の時代でも集団の自律は可能である	158

## 第4章 歴史をめぐるネーションの主張……………162

——過去の不正義の賠償と集団的責任

- 第1節 歴史をめぐる主張の性質 163
- 第2節 被害者の主張 166
- 第3節 加害者の責任 183
- 第4節 小括 201

## 第5章 領域管轄をめぐるネーションの主張……………203

——ネーションはどの土地に管轄権を有するのか

- 第1節 領域をめぐる主張の性質 203
- 第2節 過去への訴え 210
- 第3節 現在への訴え 221
- 第4節 小括 231

## 補論 グローバリズムの向かい風に立ち向かう……………235

## 第6章 人の流れのグローバリズム……………238

——国際的な移動の規制の正義

- 第1節 人が国際移動するとはどういうことか——問題の所在 238
- 第2節 総量規制の基準——何人まで受け入れるべきか 248
- 第3節 選別の基準——誰を受け入れるべきか 261
- 第4節 小括 267

## 第7章 モノの流れのグローバリズム……………272

——国際的な富の分配の正義

- 第1節 国際正義はどのような性質の問題なのか 272
- 第2節 国際正義はどのような環境で問題になりうるのか 287
- 第3節 国際正義の原理はどのようなものか 296
- 第4節 小括 318

第8章 リベラル・ナショナリズムの目的地……………320  
——我々は何を目指しているのか

第1節 目的地の所在——リベラル・ナショナリズムが目指す世界のあり方 320

第2節 目的地探求の動機——何のための議論なのか、そして結論へ 324

あとがき

初出一覧

引用・参考文献一覧